

## 砂の芸術から生まれた 人と人とのつながり

### 京都造形芸術大学



准教授  
金澤 一水 さん  
Kazumi Kanazawa

学生  
久堀 夏実 さん  
Natsumi Kubori



貝がら節祭りに参加し踊りを披露

#### 砂像を介した交流

気高町のヤサホーパークに砂像が出現しました。この砂像は、京都造形芸術大学の学生18人が地元中学生とボランティアとの共同で制作したものです。テーマは「因幡の白兔」。私たちにとって馴染みのある八上姫や白うさぎなどをデザインした7基の砂像には、制作者たちのユニークな発想が盛り込まれています。なぜ、京都の大学生が鳥取で砂像を作ったのか。京都造形芸術大学と気高町との間

では、砂像を介した交流が10年来続いています。浜村海岸で砂像を作るカリキュラムが大学で始まったのをきっかけに、気高町の人たちは、道具の貸し出しや広報活動など、活動に協力してきました。そして、今年は気高町からの呼びかけに、大学側の砂像制作に興味を持つ有志が集まり、この企画が生まれたのです。「人と出会い、コミュニケーションをとる活動を大切にしたい」と美術工芸学科准教授の金澤さん。人間関係が希薄になっている時代だから

こそ、ふれあいを求める気持ちをお大切にしなければならな  
いと考えています。  
金澤さんは、いつか砂丘という空間に自分の作品を展示するのが夢とのことで、今回の企画を聞き、我先にと参加。一方、空間デザイン学科の久堀さんは、浜村海岸での砂像制作の授業を経験しています。今年も授業でできなかった細かい表現に挑戦しようと手を挙げました。  
鳥取市では、来年4月にグランドオープンする「砂の美術館」をPRするため、この夏、

京都嵐山に14基の砂像を出展しましたが、そのうち7基をこのたび気高町にやってきた学生たちが制作。京都市と鳥取市との観光連携に大きな役割を担ってくださいました。

#### アクセシビリティと成長

砂像の制作にアクセシビリティは付き物。アイデアどおりに制作が進むわけではありません。台風や大雨、ちよつとした重さの関係で砂像は崩れてしまします。今回も、砂の質のわずかな違いや猛暑日の影響による砂の乾燥に大苦戦。

《9月の番組ガイド》

.....鳥取市行政番組.....

『こんにちは鳥取市です』【放送】毎週金・土

鳥取市の施策や事業の取り組み状況、各種行事、お知らせを紹介します。

【話題・特集】

- ▷鳥取市総合防災訓練
  - ▷敬老の日長寿者表敬訪問
  - ▷ふるさと探訪「細川の地蔵盆」
  - ▷9月定例市議会一般質問
- ※10:00～生中継、19:00～再放送



昨年の「鳥取市総合防災訓練」

静止画文字情報

『鳥取市からのお知らせ』【放送】毎週水・木・金・土



イベント・募集・相談などの各種お知らせを、文字画面と音声でご案内します。

いなばびよんびよんネット  
.....自主制作番組.....

農業番組『いなばアグリタイム』【放送】毎週水・木

鳥取特産の二十世紀梨や千両ナスの収穫の話題、水稲の刈り取り適期の栽培技術情報などを紹介します。

地域情報番組『とっとりウオーキング』【放送】毎週日・月

芸術・文化・運動の秋をテーマにしたイベントや、市内各地で行われた運動会や長寿を祝う催しを紹介します。

生活情報番組『びよんびよんワイド』【放送】毎週火

子育てや健康をテーマに、暮らしに役立つ情報や話題をお届けします。

手話番組『手話でコミュニケーション』【放送】毎週日・月

ニュースや話題、行事、お知らせを手話や字幕で紹介いたします。

※番組の放送時間や内容はホームページまたはデジタル放送の電子番組表(EPG)をご覧ください。

「デジアナ変換」サービス実施中

ケーブルテレビ局では地上デジタル放送をアナログ方式に変換して各家庭にお届けする「デジアナ」変換サービスを実施しています。ケーブルテレビに加入されていれば地上デジタル放送終了後もアナログテレビのまま地上放送が視聴いただけます。詳しくは、ご加入のケーブルテレビ局にお問い合わせ下さい。

情報をお寄せください!

いなばびよんびよんネット ☎ 0857-22-6111

※放送予定は予告なく変更することがあります。

番組の放送時間は、ホームページでも紹介しています。

<http://www.inabapyonpyon.net>



砂像の制作に取り組む学生たち

制作中、砂像が崩れてしまうシーンもありました。「しんどくなつてからが勝負」と久堀さん。中学生やボランティアの前で、情けない姿は見せられませんが、みんながここぞとばかりに力を一つにしました。「アキシデントが起った時の行動が大切」。そう語る金澤さんは、危機を乗り越えることで成長し、さ

呼べば応える人間関係

学生たちは、砂像制作だけでなく、貝がら節祭りにも参加し、地元の人たちと一緒に踊りました。気高町の有志が

らにお互いの絆が深まるのだと確信しています。そうしてできあがりを迎えた時、味わう達成感はこの上なしです。しかし、達成感を味わって終わりではなく、作品は見られて初めて価値が生まれるもの。「砂像を見た人の意見を聞き、学びたい」。それが学生たちの素直な気持ちです。

7月に京都まで行き、学生たちに貝がら節踊りを指導しました。久堀さんらは、踊りを教えに来たり、制作の様子を気にしてくれたりと、まちの人たちが気遣ってくれることに感謝の気持ちでいっぱいです。「来年以降も機会があればぜひ参加したい」と笑顔を見せてくれました。

まちの人たちも、学生たちが頑張ってくれるから、それに応えられるように一生懸命サポートするのです。

呼べば応える人間関係。これが、人びとを動かす原動力

です。一人ひとりの思いがちなが、点が線となり、さらに、面となって生まれたこの交流は、気高町の大きな財産となりました。

砂像の展示は9月30日まで。砂像は、見る時間により光のあたり方が変化し、印象が変わりますが、それがこの芸術の楽しみ方。また、彫りの一つひとつには学生たちの表現が詰まっています。砂像が見せる様々な表情をぜひご覧いただき、砂像に込められた熱い思いを感じ取ってください。